



様々な芸術・文化に
触れる体験

自分の思いを自由に表現しよう

特別支援学校

東京都立多摩桜の丘学園



笑顔と学びの体験活動
プロジェクト

概要

本校及び特別支援学校の中学部・高等部及び卒業生で、美術活動に意欲のある生徒を対象に、制約をできる限り取り払った美術活動ができる空間を提供し、自由に、かつ納得ができるまで美術作品制作に没頭できる体験活動を企画し、開催した。

育成を目指す
資質・能力

- ・ 道具の名前や使い方を知ることができる
- ・ どんな画材を使って、どんな絵を描くか考えることができる
- ・ 自ら描きたいという気持ちになることができる

年間指導計画

	4月	5月	6月	7~8月	9月	10月	11月	12月	1~2月	3月
各教科等				事業者との打合せを開始				体験① 美術活動をとおして、発想力を身に付ける	体験② 1回目の体験活動を踏まえ、さらに発想力を身に付ける	

自由な美術活動空間【本校で実施】

体験①

概要

本校体育館を会場に本校の生徒が、様々な道具や画材を使って自由に描きたい絵や作品を作成した。

体育館のいたるところにあるキャンパスに、各々が自由な発想のもと、自分のペースで好きな絵やデザインを描いた。

出来上がった作品から好きな作品を一つ選び、写真に収め、好きな一つの作品をトートバック等にプリントし、オリジナルバックなどにして、それぞれの作品を楽しんだ。

自由な美術活動空間【他校で実施】

体験②

概要

都立府中けやきの森学園の体育館を会場に、本校の生徒だけでなく、他の特別支援学校の中学部・高等部及び卒業生もを対象に、第二回目の活動と交流を行った。

1回目の体験と同様に、体育館のいたるところにあるキャンパスに、参加者は、好きな絵やデザインを描いた。一人で活動する者、協力して活動する者など様々であった。

最後に自分の作品を写真に収め、Tシャツにプリントしている姿が多く見られた。



【学校・教員】

- ・1月の実施と2回目の実施場所の決定に向けて7月頃から事業者との打ち合わせを実施した。
- ・参加者が待機する場所や絵の具等を洗う場所などの動線を考えるのに苦労した。
- ・参加募集で、どのような体験活動であるのかをアピールすることに力をいれる必要がある。



【生徒】

- ・以前に同等の活動へ参加したことがある生徒は、本体験活動への見通しがもてスムーズに参加することができた。

- ・参加した生徒に活動を楽しんでいたかを検証した。また、事業者と学校は、活動の内容や場所、参加人数等について、次回の開催に向けて振り返りを行った。その結果、一人で活動できる空間の確保を次回に向けて行っていく。
- ・一人一人の状況を把握しながら実施することができた。参加者への良い言葉かけをすることでやる気を引き立てていた。

思いっきり、わがままに、自分の作りたいものを作ってみることから始めていく。今までに描いたことのないような絵を完成させていくことが、今回のワークショップの大きなねらいである。



関係者間での情報共有が大事である。障害特性を考えてどのような支援ができるかなど共有する必要があった。それぞれのできることを考えて場の設置などが必要不可欠である。

自由な美術活動空間

「自由な美術活動空間」は、美術活動に意欲のある都内特別支援学校の生徒や卒業生、都内公立中学校特別支援学級の生徒を対象に自由に美術活動に没頭できるアート・ワークショップである。このワークショップの魅力は、時間的・物理的制約を可能な限り取り払い、参加者が思う存分表現活動に没頭できることである。体育館の広い空間を活用して、机上だけでなく、床面や壁面に広げた紙などに絵を描けるようにし、様々な画材を自由に手に取って選び、参加者の意欲に合わせて活動できるようにしている。



取組・実践

第1回目ワークショップ

令和7年1月11日(土)に、本校の体育館にて開催した。子供たちそれぞれが自分のペースで自由に絵やデザインを描くなど集中して体験活動を楽しんでいた。

この体験では、作品制作のテーマなどは決めず、参加者が自由に画材等を手に取って、好きなように作品を描いていた。また、障害者の特性等に理解のある美術家がファシリテーターとなり、参加者が表現したいものを表現できるように促したり、称賛や言葉かけを行った。子供たちが没頭して絵やデザインを描いている姿が印象的であった。



体験 2回目

計画・準備・事前学習



【学校・教員】

- ・第1回目の反省を生かし、参加者が安心して活動しやすいよう準備を行った。
(例：人数が増えても対応できるよう机等の数を増やす等)
- ・自由な場所で、自由な道具を使って絵などを描いていくことが醍醐味であるため、自由に描けるスペースを増設した。



【生徒】

- 【「個別最適な学び」の実現】
- ・普段の美術の授業では、筆の持ち方や色の使い方、合わせ方を学習した上で、作品を作成していくが、この体験活動では、参加者が表現したいもの、表現方法などを考え作品を作っていく。

振り返り・事後

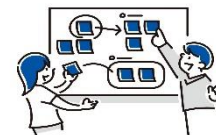
- ・他校を会場としての開催であったため、事業者と学校との事前の打ち合わせ等が重要であった。
- ・前回よりも参加人数が多かったため、その分座席数を増やしたり、壁に描けるスペースを広げたりすることで、参加者たちが没頭して取り組むことができた。

成果



参加者の中には、昨年同じような美術活動を体験した方もおり、参加した生徒たちからは、「自由に描けて楽しかった」「たくさん画材があって何を選べば良いか迷ってしまう」などの声があった。参加した生徒一人一人が、常に笑顔で活動し「楽しかった」、「参加してよかった」と思えるような自由な空間を提供するだけでなく、「個別最適な学び」の実現につなげることができた。

また、様々な学校の学部・学年の方々が参加していたので、つながりの輪を広げる効果がみられた。将来の余暇活動の一つとしてヒントを与えることができたと思う。



第2回目ワークショップ

令和7年2月22日（土）に、東京都立府中けやきの森学園（他校）にて開催した。本校の生徒や特別支援学校に在籍する生徒のみならず、近隣の学校の特別支援学級からの参加も複数名あったため、普段関わることのない子供同士で交流を図ることもできた。

今回は、自分が描いた作品をTシャツにプリントするなど、オリジナル用品にする参加者が多く、より創作意欲を掻き立てることができた。

普段、言葉での自己表現が苦手な生徒も、内面にある思いや自由な発想を思い切り表現できていた。

